

# タキイ 品種大解剖!

スイカ  
へに  
紅まくら 編

タキイ研究農場 おかだ 岡田 淳



枕形のインパクトのある外観が特徴の、果重7～8kg程度の大玉種。果肉は濃い桃紅色で、シャリ感があり、糖度は12～13度と高く、甘く食味にすぐれるスイカです。

スイカの味は収穫する株の状態が変わります。弱った株のスイカは糖度が低くふやけた食感に、逆に葉が茂り続けた場合は、空洞が入り繊維質になります。甘くてシャリツとした「おいしい」スイカは、健全で旺盛過ぎない株からとれます。

味が自慢の「紅まくら」は、大きな葉で光合成されたたくさんの養分を実に集中して送ることで、高糖度でシャリ感のよいスイカとなります。その特性を上手に引き出すちょっとしたコツをまじえた栽培方法をご紹介します。

## 定植〜仕立て、受粉

定植後は寒ければ被覆資材を活用して、なるべく25～30℃の適温に近づけますが、つるが伸び出したら被覆を開

けて湿度を下げます。夜間や曇天時は最低気温10℃ほどでも大丈夫です。茎葉がやわらかい「紅まくら」は、このステージで甘やかすと果実の肥大期に株が弱ってしまいます。つるの管理は葉が重なると呼吸によるロスが出るので、限られた面積ならば子づるを4本に仕立てて誘引し、孫づるはかき取る方がよいでしょう。

花が咲き出しても焦らずに、子づるの15節以降に咲いた雌花に受粉して着果させます。4本仕立てでおいしい大玉スイカをとるなら1株で2玉を目安とします。低節位や過剰着果では葉枚数が不足し、おいしくするための十分な養分が作れなくなってしまいます。

うまく着果すれば自然とつる伸びは鈍くなりますが、鈍らない場合は芽かきを継続します。逆につる伸びが止まりそうなら、灌水や10a当たりチッソ3～5kgほどの液肥で株を維持します。

## 収穫適期

最後に収穫ですが、完熟を見逃さないため受粉日を記録し、経過日数で切るのが一番です。中間地の6月受粉なら受粉後45日程度が収穫の目安です。上手に栽培された「紅まくら」の果実は、甘さ、香り、シャリ感すべてが素晴らしいスイカです。ぜひ挑戦してください!

## 「紅まくら」4本整枝2果どり栽培例

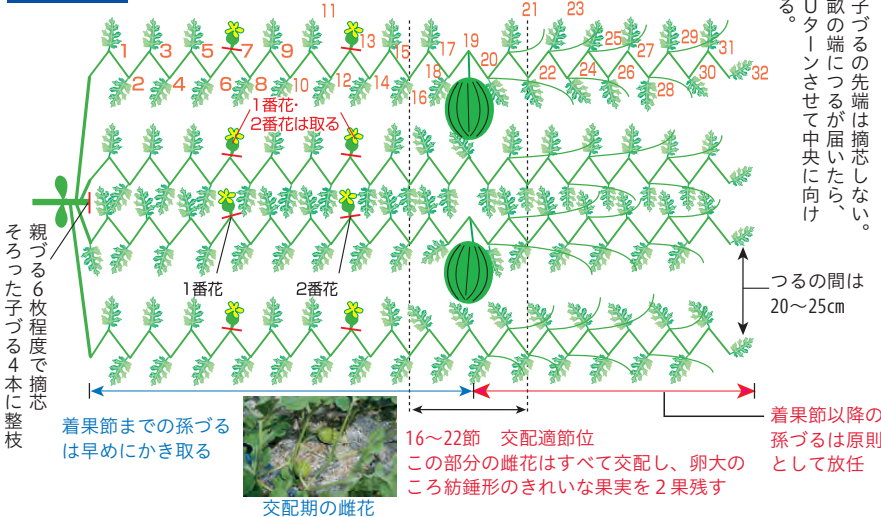
### 定植

4月中旬～5月中旬。本葉4～5枚で、根鉢が崩れずしっかりした根が張っているものが定植適期苗。

### トンネル・マルチの利用

定植後は寒ければ被覆資材を活用して、なるべく25～30℃の適温に近づける。つるが伸び出したら被覆を開けて湿度を下げる。

### 生育適温 25～35℃



## 収穫適期

